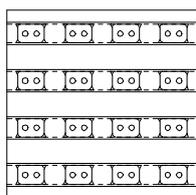
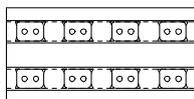


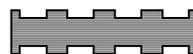
# クロスウェーブ敷設方法①



フルサイズ (1m\*1m)

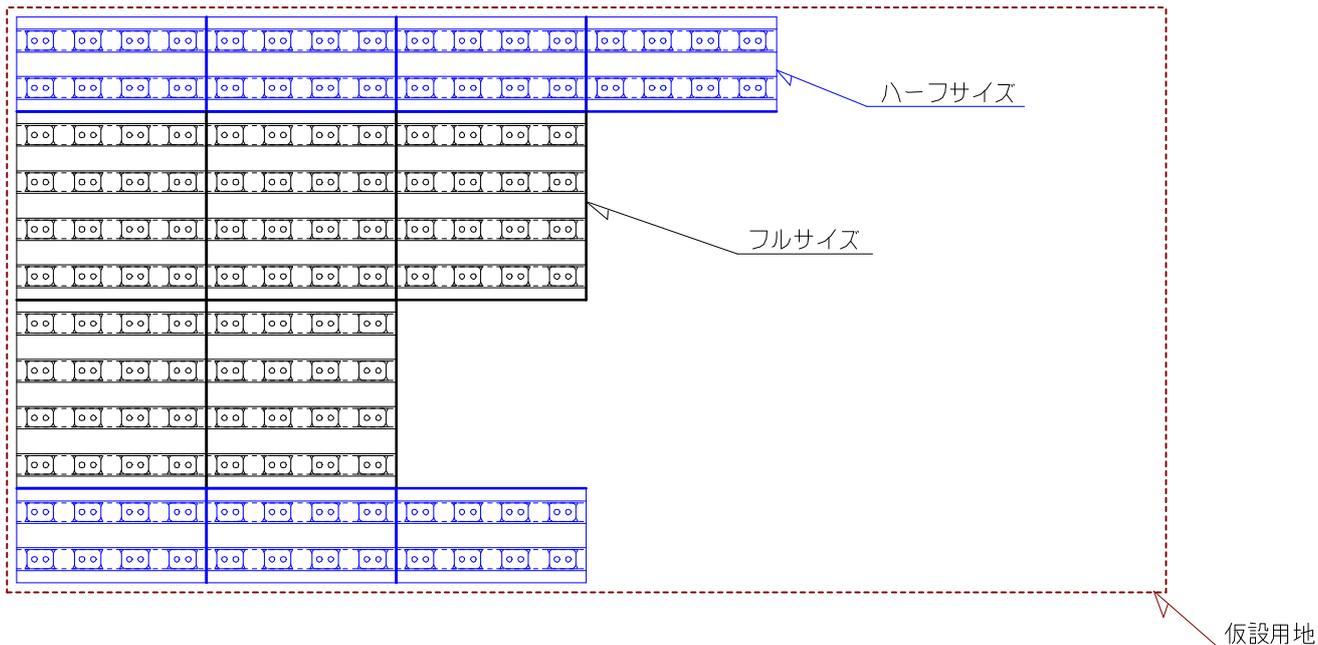


ハーフサイズ (1m\*0.5m)

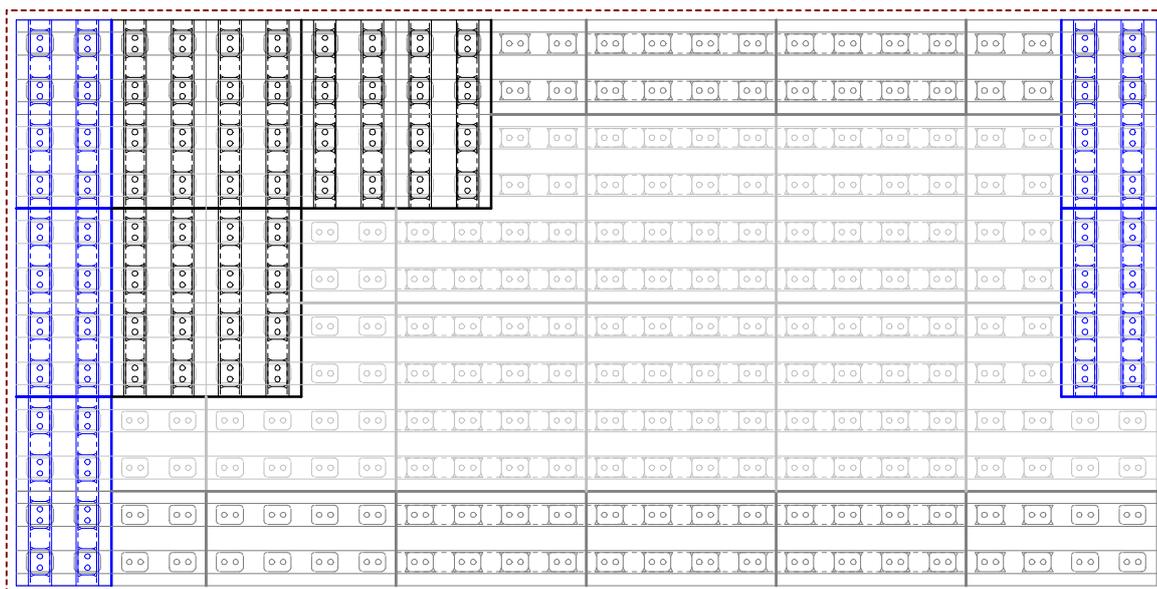


スペーサー

【1段目：下段】 両端がハーフサイズとなるように留意し、その間にフルサイズを敷いてゆきます。



【2段目：上段】 今度は、1段目とは別の端がハーフサイズとなるようにしてから、フルサイズを敷き詰めてゆきます。

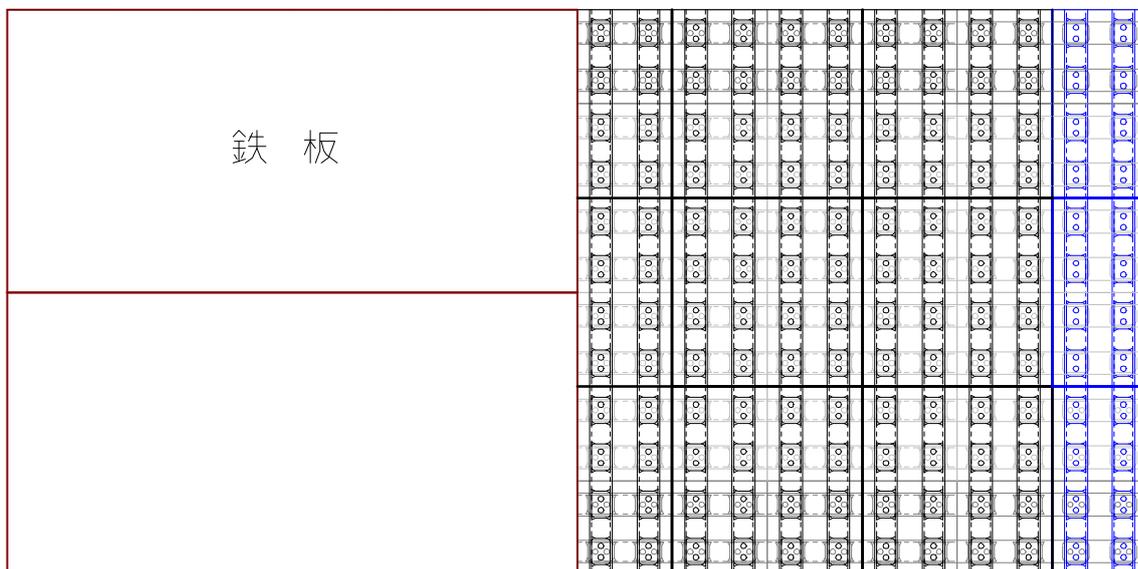


⇒このように2段に重ねることで、1段目のそれぞれの境界線上に2段目のクロスウェーブの中心がくることとなります。

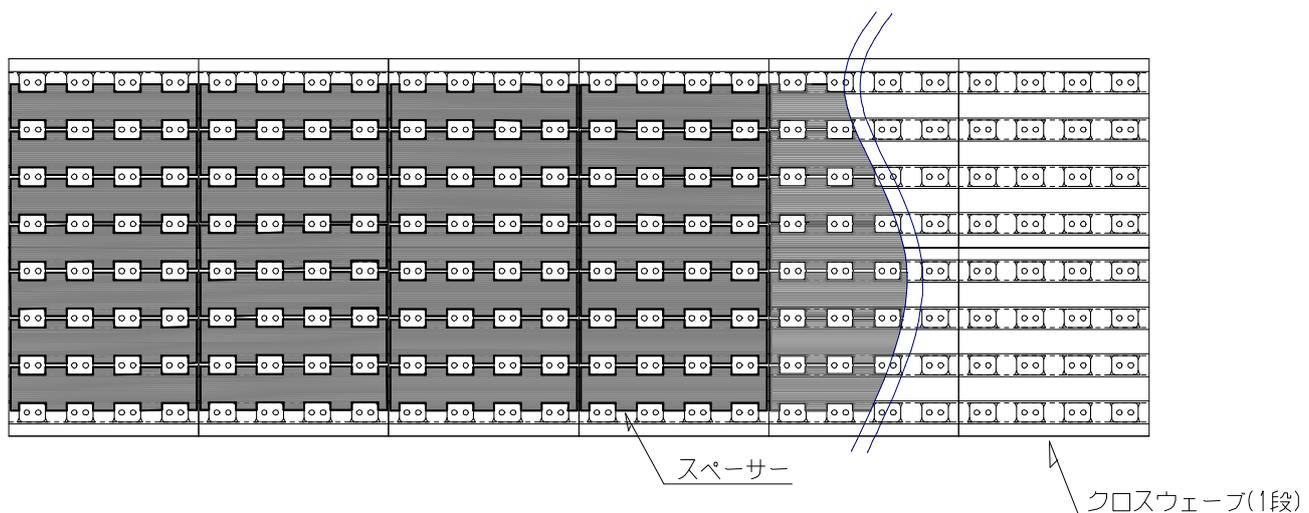
これにより上段と下段が噛み合い、ロックされるような形になり、横ずれにも強く、鉄板敷の土台としての安定性・強度を有します。

## クロスウェーブ敷設方法②

クロスウェーブを2段敷設完了しましたら、あとは、その上に直に鉄板を敷くだけで仮設は終了です。  
⇒この場合、スペーサーは不要です!

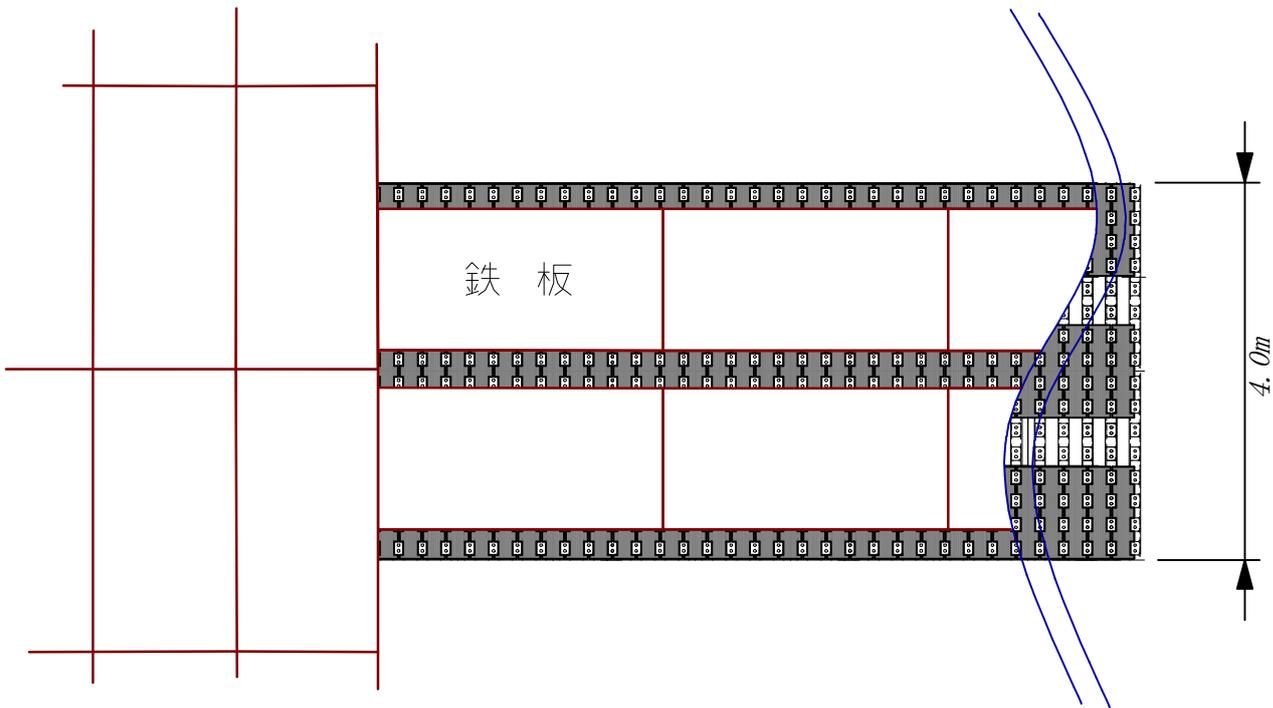


歩行路等の軽仮設の際は、下図のようにスペーサーを敷くことで足場が安定します。  
通常の軽仮設であればクロスウェーブ1段+スペーサーで充分対応できます。



搬入路仮設の手順は、【クロスウェーブ2段敷設】⇒【スペーサーをのせる】⇒【鉄板敷設】  
このようにしますと、鉄板の間で歩行者がつまづいたりせず安全です。

また、下図のように実際に面に出る場所にのみスペーサーをのせれば、  
スペーサーの枚数を抑えることができ、経済的かつ安全です！



【搬入路一例】

- 他にも、◆現場事務所入口の踏台・泥落としとして
- ◆汚したくない資材の仮置き場として

等々、軽量で頑丈ですので様々な用途で活用できるかと思えます。  
敷設に関する基本事項をまもった上でご自由にご活用ください。